塚谷君

最初のスライド

それではチームユーザーライクの発表を始めます。

私たちのチームは、ユーザーにとって、使いやすい優しいシステムにしたいという思いから、UserLikeというチーム名にしました。

（スライド切り替え）

目次

今回の発表はこの5項目について行います。

（スライド切り替え）

アプリケーションの制作経緯について

本作品を作るに至った経緯ですが、研修の初めにオンライン研修での悩みや欲しいものについて、DOJO運営事務局の方や講師の方にヒアリングを行いました。

その結果、講師からは「オンラインだと受講者の顔を認識しづらく、覚えるのに時間がかかってしまう」というものや「受講者のリアクションを感じづらかったり、理解度が確認できない」といった問題が挙がりました。

他にも「受講者のプロフィールが見たい」「日報では知ることができない進捗度を測るものが欲しい」といった要望もありました。

また事務局側からは「居眠りをしているかどうかの判断が難しい」といった声がありました。

（WEBページに切り替え）

WEB

それらに加えて、オンライン研修を受ける受講者のリアクションが取りづらいといった問題を解決すべく、私たちが開発したのがヤザワスイッチです。

では次に実際に開発したページを見ながらヤザワスイッチとは何か、どんなことができるのかについて説明していきます。

（スライド切り替え）

その１

私たちはリアルタイムに受講者の理解度を測ることができたら、講師がより生徒のことを把握しやすくなると考え、ボタンの押した回数で受講者の理解度をはかるアプリケーションを作成しました。さらに理解度だけでなく、講義中に「質問があります。」「理解できませんでした。」「もう一度お願いします。」などの反応を気軽に送れるボタンも搭載しています。

（スライド切り替え）

その２

また、講師側ではリアルタイムで集計・グラフ化できる作りになっているため、簡単に受講者の様子を確認することができます。

これら機能は時間帯ごとに理解度を確認でき、講義を理解できているかどうかだけでなく、居眠りをせず講義をしっかり聞いていたかどうかも確認できるようになります。

（スライド切り替え）

その３

これら2つの機能に加え、講師の「受講者の顔を覚えられない」「受講者がどんな人か知りたい」という問題を解決するべく、受講者の写真や詳細プロフィールが登録できる機能も付いています。これらの機能によって講師と受講者のコミュニケーションがとりやすくなっています。

（スライド切り替え）

コンセプト

concept①次にコンセプトについての話ですが、ヤザワスイッチは皆が楽しく研修できるよう online fun というコンセプトの下制作されており、

Concept②受講者と講師の双方が

Concept③楽しめるようになっています。

Concept④また本作品はjava基礎コースの講師であり、我らが師匠の矢沢講師をイメージして作ってあります。

Concept⑤デザイン面では矢沢講師の優しさやパッションをイメージしたオレンジと

Concept⑥水色を使用することで楽しくポップな雰囲気に仕上げました。

Concept⑦これらの情報を集約して、タイトルはヤザワスイッチとなっています。

（スライド切り替え）

ここからはバトンタッチしてデモンストレーションを行っていきます

加藤さん

Webページを見せた状態

それでは「ヤザワスイッチ」のデモンストレーションを始めます。特にログイン後のメインページの機能やデザインに着目してご覧ください。

松井さん

研修成果スライド

次に研修成果です。

（スライド切り替え）

追加してみたい機能のスライド

追加してみたかった機能を3つご紹介いたします。

1つ目は、受講者がリアクションボタンを押したら、講師側にも音声が流れる機能です。

授業の妨げにならないためにも、時間内に一番多く押されたボタンだけを流すといったシステムが必要です。

2つ目は、リアクションボタンが多い順に並べ替えられる機能です。

一定時間内にどのリアクションが多く押されたのかが講師にわかるよう、多い順に自動で並び替えられる機能を追加したいです。

3つ目は受講者の居眠りがわかる機能です。

集中していない受講者や居眠りがわかるように、最後にボタンを押してからどの程度時間がたったかわかる機能を追加したいです。

この3つの機能はどれもボタンを押した時間を保持すれば実装が可能でした。

それ以外は基本的に付けたい機能を付けることができたのでよかったと思います。

次に成長した点です。

（スライド切り替え）

成長した点のスライド

今回の研修を通して、チームで成長したことについてお話します。

成長できた点はチームメンバーとのコミュニケーションです。

今では頻繁に笑いが起こるほど打ち解けましたが、最初はなかなか話し合いでも意見が出ない状況で、議事録しか共有できていませんでした。

しかし、全体で情報やイメージの共有を積極的に行い、共有すべき事項や議事録は常にOneDriveで管理するようになりました。このことで、今週やること、メンバーそれぞれの進捗状況や次に行う予定のタスクなどをリアルタイムで確認できるようになりました。

また、情報共有を進め、話し合ううちにそれぞれが自由に意見を出せるようになりました。

そのため、疑問点が出てきたら、zoomの画面共有機能を使い、メンバー同士で教えあうようになりました。

このように、チーム活動を通して、それぞれが積極的に情報や疑問点を共有したことにより、チーム内で認識のずれがない状態で進めることができたので、共有の大切さに気が付くことができました。

次は課題です。

（スライド切り替え）

課題のスライド

課題としては3つあります。

1つ目は、各自のバックアップ不足 です。

エラーの時にエラーが起きる前のファイルをバックアップしていないことが何度かありました。

そこをバックアップするように意識することで問題を早く解決できたと思います。

2つ目は、担当箇所以外の理解 の不足です。

各自の担当していない箇所のプログラムに触れることが少なく、プログラミング能力の成長に偏りができてしまいました。

（発表までに勉強会をしてお互いに担当箇所の説明をする予定）

3つ目は、設計が不十分な箇所があったところです。

外部設計でのデザインの設計や初めて取り扱う機能のシステム設計が不十分で、実装に少し時間が掛かったことがありました。

次は個人発表です。

（スライド切り替え）

個人発表

リーダーの塚谷です

ここからはメンバー一人一人が個人の成果について簡単に発表していきます。

スライド左側には本人とチームメンバーが話し合って採点した項目のレーダーチャートが、右側には特に力を入れて作ったページの写真がありますので、そちらと合わせてお聞きください。

私が今回の研修で得たものとしては、リーダーとしての役割理解と、Javaの知識定着です。私自身リーダー経験があまりなかったのですが、チームメンバーの助けもあり、リーダーとしての役割を理解することができました。また開発では主にDAOとサーブレットを担当したことで1カ月前に学んだJavaの知識が定着してきました。

今後の課題としては、今回の研修で学んだリーダーとしての立ち振る舞いを実行していくことと、あまり得意でないデザイン周りの勉強をしていくことです。

次は構成管理担当の加藤さんです。

（スライド切り替え）

構成管理の加藤です。

研修成果

メンバーの強みや適正を見て仕事を割り振り、常に全体の状況を意識して進めることでチーム全体の作業効率をあげることができました。

今後の課題

前半はメンバーのサポートで手一杯になり、 メイン機能である自分の担当箇所を思ったように進めることができなかったため、今後は優先度を意識して立ち回るようにしたいです。

次はデータベース管理担当の土肥さんです。

（スライド切り替え）

（スライド切り替え）

松井

最後のスライド

これでUserLikeの発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました 。

渡部

品質管理担当の渡部です。主にCSSを担当しました。

ユーザーにとって親しみやすいか、

どんな人でも使いやすいかを考え

各機能の画面配置設定やデザインを考えました。

課題として、

品質を向上させるという目的を意識し、外部設計書や各機能考案に対して客観的に考え、自分自身の意見を伝えることが必要だったと考えられます。

次はコミュニケーション担当の松井さんです。